

「いしかわレッドデータブック 2020」について

1 概 要

いしかわレッドデータブックは、県内で絶滅のおそれのある野生生物をリストアップし、種ごとに解説を加えた資料集で、絶滅のおそれの程度に応じて、カテゴリー分けをして評価を行っています。

県では、平成11年度に初版を発行して以降、絶滅のおそれのある野生生物についての確に把握していくため、定期的に見直しを行っており、平成20・21年度に第2版を発行、平成27年度から専門家による調査を経て、この度、第3版となる「石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2020」(動物編・植物編)を公表します。

2 要 旨

(1) 掲載種数は、1,194種(植物720種、動物474種)となり、前版(第2版)から195種(植物73種、動物122種)増加となっています。

主な増加の要因は、調査の積み重ねにより県内の野生生物の生息状況の把握が進展したことや、生息環境が変化したことなどが挙げられます。

(2) 掲載種のうち、絶滅危惧種(絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類)は、669種(動物208種、植物461種)となり、前版(第2版)から98種(動物61種、植物37種)増加となっており、特に、昆虫類で48種、植物で37種が増加しています。

(3) 掲載種のうち、絶滅種は、15種(動物5種、植物10種)となり、前版(第2版)から1種減少となっています。

① 前版で絶滅種となっていた植物のカザグルマとマツバランが再発見され絶滅危惧Ⅰ類へ、トキは佐渡放鳥個体の長期滞在がみられたこと、ライチョウは白山で再発見され、それぞれ今後の飛来も考えられることから絶滅危惧Ⅰ類へランクダウンとなりました。

② 植物のサクラソウとムサシモ、鳥類のヒメクロウミツバメが新たに絶滅種となりました。

3 その他

- ・自然環境課ホームページからダウンロードできます。

URL : http://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/reddata/rdb2020/rdb_2020_top.html

- ・石川県行政情報サービスセンター(076-225-1236)にて有償頒布しています。

(植物編3,080円、動物編1,980円)

(参考) いしかわレッドデータブック 2020 掲載種数

※()は第2版からの増減

分類	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧		小計	準絶滅危惧	情報不足	合計
			絶滅危惧 I類	絶滅危惧 II類				
植物	10 (0)		259 (57)	202 (-20)	461 (37)	176 (7)	73 (29)	720 (73)
動物	5 (-1)		90 (19)	118 (42)	208 (61)	200 (53)	61 (9)	474 (122)
哺乳類	2 (0)		7 (3)	7 (-1)	14 (2)	8 (0)		24 (2)
鳥類	1 (-1)		16 (0)	20 (3)	36 (3)	29 (4)	5 (0)	71 (6)
両生爬虫類			2 (0)	1 (0)	3 (0)	4 (1)		7 (1)
淡水魚類			2 (0)	6 (3)	8 (3)	5 (1)	1 (1)	14 (5)
昆虫類	2 (0)		56 (16)	67 (32)	123 (48)	108 (42)	29 (5)	262 (95)
浅海域の生物				2 (0)	2 (0)	9 (2)	7 (-7)	18 (-5)
貝類			6 (0)	14 (5)	20 (5)	32 (1)	15 (6)	67 (12)
その他の動物			1 (0)	1 (0)	2 (0)	5 (2)	4 (4)	11 (6)
合計	15 (-1)	0 (0)	349 (76)	320 (22)	669 (98)	376 (60)	134 (38)	1,194 (195)

(参考) いしかわレッドデータブック2020のカテゴリーとその定義

<ul style="list-style-type: none"> ● 「絶滅 (EX) 」 石川県ではすでに絶滅したと考えられる種。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「野生絶滅 (EW) 」 飼育・栽培下でのみ存続している種。
<p>「絶滅危惧」 = 絶滅のおそれのある種</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 」 絶滅の危機に瀕している種。 ● 「絶滅危惧 II 類 (VU) 」 絶滅の危機が増大している種。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「準絶滅危惧 (NT) 」 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する危険性のある種。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「情報不足 (DD) 」 評価するだけの情報が不足している種。
<ul style="list-style-type: none"> ● 付属資料「地域個体群 (LP) 」 地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群。

○絶滅から絶滅危惧Ⅰ類となった種
(生息・生育が確認された種)



カザグルマ

つる性の木で、5～6月に開花する。平成30年に再発見された。



マツバラン

シダ植物の一種。平成30年に再発見された。



トキ

近年、佐渡で放鳥されたトキが県内に飛来し、長期滞在がみられた。今後も飛来が予想される。



ライチョウ

平成20年に白山で再発見され、平成28年まで観察された。今後も飛来が予想される。

○新たに絶滅となった種
(長期間確認できなくなった種)



ヒメクロウミツバメ

七ツ島大島周辺での昭和57年の観察記録を最後に、その後38年間詳細な調査が行われているが確認できていない。



サクラソウ

1950年代まで河北潟周辺で確認されていたが、その後の確認できなくなっている。



ムサシモ

ため池などの水中に生える水生植物。標本記録がある能登地方の生育地の調査が行われたが確認されず、約50年間生育が確認できていない。